

電友会四国連合会報

第 22 号

78. 4

目 次

共済会の社会福祉活動……………共済会四国支部長……………二	
恩給・年金情報……………二	
公社だより……………三	
電電公社人事異動……………三	
共済会だより(一)……………三	
『でんでん日尾クラブ』第二回集会……………四	
おしらせ……………四	
表紙のことば……………四	
短 歌……………四	
特集……………五	
会員消息……………五	
上原 久江……………五百木三摩地……………遠藤 正義……………久米 清	
川原 政男……………国松小弥太……………菊地 常雄……………香西伊三郎	
合田 謙三……………島内 秀鹿……………瀧口 健次……………土居松太郎	
福良 義明……………堀江 源三……………藤原 繁之……………三島 富二	
湊 弥五郎……………三好 義士……………山口 初樹……………山崎 荒行	
山下 亀勢……………山下 茂……………	
随筆……………二	
おじまとし・高橋数一・浜口徳幸・栗田信雄……………二	
藤田基孝・窪田淳・田中義隆・玉川都夢・Q・Q生……………三	
俳 句……………三	
三島花人・長島正行……………三	
訃 報……………三	
編集後記……………三	

共済会の社会福祉活動

共済会四国支部長

六 車 美 一

電気通信共済会
は電電公社の①公傷退職者や永
年勤続退職者お
よびこれらの方
方の遺族ならび
に在職中死亡さ
れた方の遺族に対しその生活を援助する
とともに②現職中の電電公社職員の福利厚生を増進す
ることを主目的として設立（昭和二十七年）された
福祉事業体であります。右の①に該当するかたは、公社退職者とその
遺家族であり、また②に該当するかたは文
字どおり現職者のかたであります。共済会の
行う社会福祉活動は①に該当するかたに対し
てのもので、いわば退職者活動と言ったほう
が分りやすいかも知れません。共済会の現在行っている社会福祉活動には
どんなものがあるか、主なものを申し述べま
す。一、退職者および遺家族を対象に生活相談、
生活援護

一、高校、大学に修学する子弟を対象とする

育英資金の貸付け

一、通信病院、診療所を利用した場合に、医
療費の負担軽減がうけられる医療共済一、重症心身障害児等に対する見舞金の給付
一、伊豆リハビリテーション・センターの運
営などを行っており、このほか五十三年度から
退職者文化活動（老人大学その他）の援助な
ども実施することとしております。これらの社会福祉事業に要する費用はすべ
て、共済会が営んでいる一般事業（収益事業）
から生じた利益の中からまかなわれておりま
す。この財政援助なくしては成立しないわけ
です。共済会が創立されて今日まで二十六年
になります。社会福祉事業がはじめられた
のは——それも最初は細々とですが——まだ
八十九年前からであります。共済会の財政基
盤が強固になるまでは、社会福祉をはじめる
余力が無かったからです。現在実施中の項目ではまだまだ不十分であ
ります。今後実施項目や内容を拡大していく
こととしていますが、その方向としては、生
活に困っているかたの援助のほかに、退職者
一般の方に対して有意義なものを開拓する必
要があります。積立金の累増など財政的裏
打ちを勘案しつつやってくることにしまし
よう。五十三年度から、別掲（次ページ参照）
のような退職者文化活動がはじめられようと
しているのも、右の趣旨からであります。退職者や遺家族のかたにもお役に立つ共済
会たるべく、会は今日も使命を感じつつ活動
をつづけています。

恩給・年金情報

閣議決定をみた昭和五十三年度恩給改善主
要項目を長田裕二参議院議員から入手しまし
た。その中で共済年金に最も関係のあると思
われるものは次のとおりですが、これの実施
については国会の議決によるものであります
ので、一応の情報としておしらせします。また共済年金の増額については、恩給増額
等に準ずる法律が出ることは例年のとおりで
あると思われます。

一 恩給年額の増額

昭和五十二年度の人事院勧告による公務
員給与の改善を分析した結果に基づき、恩
給年額の計算の基礎となつてゐる仮定俸給
年額を昭和五十三年四月から、七%プラス
千三百円引上げる。

(例)

号俸	仮定俸給年額	増額	率	備考
二一	七・一三、三〇〇	七・一八%		兵
二五	八〇〇、〇〇〇	七・一六%		軍曹
四七	一、六七六、〇〇〇	七・〇八%		大尉
六〇	二、六六七、二〇〇	七・〇五%		大佐
七三	四、〇六六、八〇〇	七・〇三%		中将
七四	四、二二三、一〇〇	二・九五、二〇〇円増		中将
以上		一率に		

二 普通恩給等の最低保障の改善

六五才以上の長期在職者の普通恩給の最
低保障額を四月から、共済年金の最低保障
額との均衡を考慮して増額するとともに、
その他の普通恩給又は普通扶助料の最低保
障額についても、これに準じて増額する。

三 寡婦加算及び遺族加算の引き上げ

扶助料の給付水準の改善を図るため、寡

婦加算及び遺族加算の額を六月から引き上げる。

四 老令者等の算出率の特例

八〇才以上の者に給する普通恩給の年額を計算する場合には、老令者を優遇する趣旨から、実在職年が普通恩給についての最短恩給年限を超える一年増すごとに、仮定俸給年額三〇〇分の二ずつを加えることとしているが、六月からその限度一〇年を一三年にするるとともに、この措置を七〇才以上八〇才未満の普通恩給についても及ぼすこととする。

公社だより

生きている証拠を

四月は年金受給者の受給権利確認の証明書を提出する月です。職員部厚生課から送付される証明願に、市町村長の証明を受けて期日までに必ず出して下さい。おくれると、年金の支払を受けられなくなることもあります。市町村によってはこの証明の手数料を免除しているところもありますので付言します。

○証明は四月一日以降であること。

○提出期日 四月一五日必着のこと。

○送付先 四国電気通信局職員部厚生課
(松山市一番町四一三)

電電公社 人事異動(敬称略)

総裁室文書課長

(五三、一、一二)
川井 淳

文書広報課長

(五三、一、二四)
青木 信夫

保全部長

本村 晴永

経理部長

資材部長	四国電気通信資材配給局長	伊予電報電話局長	八幡浜 同	坂出 同	琴平 同	土庄 同	鳴門 同	協町 同	阿波池田 同	室戸 同	秘書課長	松山電信電話料金局長	中島電報電話局長	伊予中山 同	伊予長浜 同	三瓶 同	野村 同	御庄 同	新居浜 同	高瀬 同	観音寺 同	讃岐三木 同	内海 同	徳島 同	神山 同	吾北 同	土佐 同	佐川 同	江川 同	南国 同	赤岡 同	田野 同	嶺北 同
建築部長	四国電気通信学園長	香川電気通信部長	松山搬送通信部長	松山無線通信部長																													

出 番 で す

— 退職者文化活動援助事業はじまる —

電気通信共済会四国支部

皆さんお元気ですか。

共済会は社会福祉事業の一環として、本年度から全国的に退職者の各種文化活動を援助する新規事業をはじめることになりました。

この事業の趣旨は、退職者の方々の生活に、はりあいをもっていたかどうかというもので、具体的には、退職者の皆さんの趣味や余技活動を助成したり、講演会あるいは老人大学などを開講して、いささかも精神的、文化的な面で生活に寄与できればと考えています。四国では、さしあたり次の事業を企画していますので、皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

なお、種目、実施方法等については、今後皆さんのご意見をきながら逐次拡充してゆきたいと考えています。

一 文化講演会の開催

- (一)とき 五月下旬または六月上旬
- (二)場所 松山市(電信電話会館の予定)
- (三)時間 一〇・〇〇—一四・三〇まで
- (四)演題等 「生きがい」「健康」に関するテーマで講師選考中
- (五)その他 当日は、お互の親睦もはかりたいと考え、簡単な昼食を用意します。

二 老人大学の開設

- (一) 科目 園藝科
 (二) 会場 建設会館等の予定(座学、実習)
 (三) 対象 松山近郊で通学可能な方
 (四) 実施方法 年間五、六回程度で一回二、三時間の予定

- (五) 講師 選考中
 (六) その他 授業料 無料

実施方法等については、参加者の要望により運営したいと考えています。

この結果をみて、他地域での開講も考えます。なお、科目についても、例えば教養科等の開設も検討します。

三 サークル活動の援助

会は、一定の条件を具備したサークルに対し、会場費、講師謝礼等の一部を援助し、サークルの育成助長に務めたいと考えています。さきに調査した結果では、退職者の方々は夫々の地域で公民館活動や、自身自身の余技、趣味等を通じ余生を楽しんでおられ援助の対象となる電電職域の「OB」のみで活動されているグループは僅かです。そのため、サークル結成の動機づけになればと考え、各県庁所在地の退職者に呼びかけ、「囲碁大会」「歩こう会」の開催を企画しています。

以上、初年度における「退職者文化活動援助事業」の概要をお知らせしましたが、各実施予定項目の具体的な日時、実施方法などについては、煮つくり次第、再度周知することになります。

なお、詳しいことは左記へお問合せください。

共済会四国支部 福祉相談所

松山(〇八九九) 三二―三三三二

「でんでん日尾クラブ」第二回集会

松山市久米地区居住OBの集いは、一月七日夕方から地元の鷹子荘で新年懇親会を開催し、二十二名が元気に出席した。

毎回意義のある会とするように、今回は水野世話人のあいさつの後、亀田会員が共済会の社会福祉事業について資料に基づき詳細に発表し、近く実施予定の退職者文化活動援助事業についても、会員の理解を深くした。

続いて次回の春季行事は、会員相互の趣味を語る会とすることに打合せて懇親会にうつり、心のつながる近所づきあいの集いは、酒杯の献酬に新春らしい歓をつくして、めでたく散会した。(田中生)

〓 おしらせ 〓

〇本年六月一日現在で会員名簿を作り直す予定でおります。お手許の名簿で変更になっている方は至急各県の会の事務所へご連絡ねがいます。名簿は会員、その他の連絡上必要なものですから今後変更(住所変更、職業変更、電話番号変更等)があった場合は、その都度至急事務所へご連絡下さい。

〇本年度の連合会総会は徳島で開催する予定でおります。詳細は次号でお知らせします。

表紙のことば

莊野 丹秀(内海)

スリランカの人々は信仰心があつく、沢山の坊さんが静かな生活をおくっている。

仏院の前で若い坊さんをスケッチする。黒い体に黄色のころもを着て裸足、門前の白象の彫刻の前に立ってもらう。首都コロンボの屋さりのひととき。

五二、一一、一〇 コロンボにて

短 歌

初 詣 で

藤 田 基 孝 (松山)

高千穂の宮の夜神楽友と見る神のまぐはひの所作のおかしき

二日寐し「刈手」の宿を発つ吾の足にまつはる庭鳥二つ

谷合を吹く風ありて杉の穂の雪は白々と尾を引きて飛ぶ

茅を葺き竹に囲へる湯治小屋白く濁れる湯のあふれたり

白き温泉(いづみ)大きく揺りて匂ひ立つ膚くねらせてをみな上りぬ

会員消息



上 原 久 江 (高松)

- アンケート項目
- 一 年令・家族構成
 - 二 健康状態
 - 三 健康方法
 - 四 趣味
 - 五 過去の思い出

一 五十六才 娘二人と三人家族。
二 良好。
三 つとめて歩くことにしている。

四 美術品、音楽の鑑賞。最近はろうけつ
五 染をたのしんでいる。

一 若い頃から山登りが好きで、高松の近
二 辺の山にもよく登ったものです。印象に
三 残るのは、五十才の夏石鎚山頂で拝んだ
四 日の出と、五十四才の秋北アルプスの八
五 方尾根でのご来迎です。太陽が美しい顔
を見せ始めるとサッと後光が射す。それ
を受けた同僚の顔。ピンクとも赤とも言
えない色……すばらしさ。山はいい
です。

五百木 三摩地 (松山)

一 六十二才 夫婦、長男夫婦、次男。
二 普通。六十を過ぎれば誰でも少々悪い
のが普通と思っています。

三 朝寝したいが犬が待ってくれないので
四 早朝散歩と果樹園の保全整備。精神的に
五 は、クヨクヨしないこと。

一 近所の停年退職者との囲碁、麻雀。車
二 を運転してのお四国参り(三回目)
三 思い出は嬉しかったことだけ残すよう
四 にしています。公社卒業時に、社会人と
五 しての能力テストとして自動車運転へ挑
戦しました。自分なりの努力はしたが終
了試験の学科百問満点と技術も一発で合
格し、賞品賞状をもらった時の嬉しさは
最高でした。以来その技術を活用して農
産物の出荷や、夫婦でお四国参りにとび
廻っており、これが健康保持に還元して
いることを信じています。

遠 藤 正義 (高松)

一 五十七才 妻と二人暮らし
二 良好。

三 特にないが、歩くように努めている。
四 囲碁、ゴルフ。

五 広通を卒業して岡山郵便局へ出向した
のは昭和十二年の七月である。

一 そんなある日父が突然下宿先に現われ私
二 を高松へ連れ帰るという。私は応じな
三 かった。私の広島行きは、父の反対を押し
四 切り家を飛び出したという経緯がある。
五 父の再三の来岡にうんざりした。また同
郷の先輩も心配され、二年足らずで高松
郵便局へ転勤した。父は喜んだが私は悲
しかった。目標を失った私は従軍を希望

久 米 清 (徳島)

一 し昭和十六年七月渡満した。私は軍の命
二 令だと主張したが父は納得しなかったよ
三 うだ。昭和十七年の暮に帰還したが落着
四 く間もなく応召、父は悲しそうであった。
五 終戦をビルマで迎え復員したのは昭和二
十一年の七月である。今度こそは父と共
にと思いつつわが家へ急いだ。戦災で家
はなかった。一年前の父の病死を知った。
私が昭和十一年に家を飛び出した時、
母はすでに亡く、私を頭に弟妹三人の世
話をしていた父は、今の私と同年の五
十七才であった。後悔させられる日日で
ある。

一 六十二才 妻と長男の三人暮らし。
二 健康診断で胃内ポリプ一発見され五十
三 一年九月二十日手術目下療養中。
四 朝夕約三〇分間徒歩運動を行っている。
五 植木作り等。

一 第二線路宅内課で六、〇〇〇個の大量
二 加入者開通が実施され、徳島局初めての
三 規模で月別開通目標達成するため請負工
四 事で実施苦慮したが、年度内に目標を達
五 成し、六、〇〇〇個の開通完了した時は
喜びを新にしました。

川 原 政 男 (高瀬)

一 五十五才 妻、新居浜報話勤務の長男。
二 健康。
三 四、五キロの早朝マラソン、ゴルフ、

五 四

玄米食。
謡、果樹園芸。

四十の手習いに自動車運転免許取得のため一月九日入学した。二月の定期異動、春闘などのスケジュールを展望すると、どうしても一発でパスしたい。ある日教官に相談すると、誰も年の数ほど乗っている。そこで授業開始前に補習を受けることとし凍へてつく毎朝を汗だくの寒稽古で休日は朝から晩まで学科を受けて所定の受検資格を得、二月六日卒業生総代で答辞を読んだ思い出は今も忘れられない。

国 松 小弥太(松山)

一 六十六才 妻と二人暮し。
夫婦共に健康。

二 三 よく食べ、よく動くこと。(但し過食過労は禁物)

生活のリズムを乱さないこと。

四 園芸、盆栽、陶芸、旅行。

五 終戦を迎えシベリヤの原野に三ヶ年の俘虜生活を強いられた。苛酷な労働とわるい環境、加えて精神的不安、全く極限を越えた生地獄であった。多くの人が体験されたが私は終生忘れることのできない悪夢の思い出となっている。それだけに突然帰還の決った時の喜びも一層大きいものであった。

菊 地 常 雄(丸亀)

一 五十八才 妻、長男、次男

健康。

二 子供なみに寝て、よく歩くこと。
三 園芸、釣。

四 車の免許をとって松山市内へ出た時のこと。電車の踏切上でエンストした。何回やってもすぐエンストして車は全然動かない。助手はオロオロして「オイ大丈夫か」の連発、私はカーッとして猛烈な緊張感で脇腹が痛み出した。「アー神様」そんな気がした。

五 無我夢中の何分かが過ぎやがてエンジンが物凄いい音をたてた。「アッ、動いた」その時の嬉しかったことと安心感、今でも鮮かに思い出す。ふと見るとサイドブレーキを引いての運転だった。

香 西 伊三郎(高松)

一 五十九才 妻と二人、長男次男は別居。
二人とも健康

二 適度な運動と節酒を守り、十分睡眠をとるよう心掛けている。

三 適当なスポーツ。最近主として卓球。

四 昭和十一年三月蛍雪の功なり高商を巣立ち社会に船出した。当時の社会は風波高く、思わぬ不況下の船旅であった。暫らく船旅が続けたが、進路が安定せず幾度も舵をとられそうになり、そのうち帆柱が折れ航海不能となり帰港する破目となった。

五 半年余りの流浪生活が続き挫折感に苦しむ日々であった。その時再起の手を差しのべてくれたのが広島通信丸の高松工

務出張所の峰見船長であった。今は亡き峰見正雄船長は再起に当り、この出航が最後であると心するよう激励のメッセー

ジと共に船倉一ぱいの工務魂を積込んでくれた。永い航海であったが、その工務魂は任務を果たした今も心の糧となっている。

合 田 謙 三(鳴門)

一 六十才 妻と長女の三人
普通です。

二 起床後の乾布摩擦と自己流五分間体操と自転車乗り三十分です。

三 松山でやっていた詩吟も徳島では近所に遠慮して中止したので今では声も出さず、もっぱら読書で楽しんでいます。

四 転動して職場のリクレーション等での地方の名所等を訪れ皆で一日を楽しませました思い出は今でも忘れることは出来ません。高松では屋島、栗林公園、津田海水浴。高知では桂浜、種崎海水浴、竜河洞。竜岡では鈍川温泉、唐子浜海水浴。徳島では眉山、祖谷、松山では石鎚、面河、奥道後、耕三寺、大三島、道後公園、松山城等です。

島 内 秀 鹿(南国)

一 七十一才 妻と二人暮し。

二 毎年五、六月頃血圧に異常がおきるも今はまあまあ健康です。

三 睡眠を充分とる。畑仕事はしても一、

五 四

二時間程度で無理をしない。
川漁、囲碁。

安芸郵便局へ出張して帰宅した晩の事、家内が縫物のよなべをすると言うので蒲団を横によせて休みましたが、やがてメリメリ音がしたと思った途端外側の硝子戸も内側の硝子障子も吹っ飛び、硝子は倒れ火鉢はこなごなに割れ灰神楽。これが南海地震でした。いつもの場所に寝ていたら多分筆筒の下敷は免れなかったでしょう。命拾をしました。あれから三十年結核で手術しましたが、この歳までよく長生きしたものだと思っています。

瀧 口 健 次 (阿南)

五 四 三 二 一

六十四才 長男、嫁、孫三人。
健康。
動くこと。
碁、将棋。
電電公社が健全で、基本方針どおり、低廉で公平なよいサービスの提供が一般社会に周知徹底していることを聞いて、嬉しく思い、力強く生きて行ける事を非常に喜んでいます。

土 居 松 太 郎 (高松)

五 四 三 二 一

五十八才 妻と二人。
至極元気。
早起、そして体を動かす仕事をする。
俳句。
昭和五十年一月公社を退職した私は実

に後髪を引かれ断腸の思いであった。それは、その後にくるもの考えたとき、失敗したら身ぶるいするのを覚えた。

しかし、電友会の皆様をはじめ多くのの方の多大なご支援をいただき市議当選ができましたときの感激、感謝これ私の生涯にとって忘れ得ぬことです。

福 良 義 明 (徳島)

三 二 一

五十九才 妻と息子の三人暮らし。
良好。
健康方法としては別段なものもしていないが退職後「ポケットベル」に勤務、現役のように毎日規則正しい生活をしている。

五 四

昔はあったが現在は何もない。
戦前派にとって嬉しかった思い出より苦しかった思い出が多い。軍隊時代、戦災、戦後の生活等今思い出してもゾーとするほどです。
嬉しく思うことは諸先輩達のご指導、ご厚情により公社を無事卒業できたことです。

堀 江 源 三 (西条)

二 一

六十五才 妻と息子夫婦の四人暮らし。
五十二年九月胃の手術、その後順調で楽しく過している。
朝ラジオ体操、散歩、神社佛閣へお参りなど努めて歩くことにし、取りこし苦労はしないことにしている。

五 四

庭木いじり、最近さつきを少々作っている。沖釣。

嬉しかったことは、同僚が病氣見舞に訪問してくれたこと、やさしい一言のかけ声は実に嬉しい。良き友をもってよかったなあと一人喜びを感じる。

つらかったことの一つは、子供にさき立たれた時、病院で医師から手術を言い渡された時は、その身になって見ないとわからないものである。つらかったことは出来るだけ思い出さないようにつとめている今日この頃である。

藤 原 繁 之 (高知)

五 四 三 二 一

六十六才 妻、長男、二女の四人暮らし。
目が少々薄くなった程度で健康。
深酒をしないこと。適当な運動をすることですが、何をやっても三日坊主です。野菜作り。
過去の思い出は沢山ありますが、その一つ一つが良い思い出と成っています。つらかったことが不思議とうれしい思い出となって老後を豊かなものにしてきています。私も長女(松山在住)に子供が出来て事実上祖父になり、またおじいちゃんと呼ばれるのがてれくさい感じです。

三 島 富 二 (徳島)

三 二 一

七十二才 家内との二人暮らし。
共に健康です。
専ら歩く事にしている。老人旅行会や

五 四

その他の旅行会に入会し、一泊か二泊の札所参りをしたり俳句の吟行など。

俳句（月五回位の句会に参加）徳島市花と緑の会会員。

昨年十一月当市に花と緑の会が発足しその一環として市内国道道路佐古二番町緑地帯の両側のつつじの整枝及び清掃を一月十二日午前十時から行なった。

見る見る内に缺の音も軽やかに整枝され切り取られた枝は婦人会の人達が袋に入れ一時間余りで見事に手入がされた。その状況は新聞やテレビのカメラに撮られニュースとして報道された。我等の奉仕で立派に開花するつつじが市民の眼や日々数万台の自動車・バスの乗客の眼を楽しましにくれる四月、五月の訪れる日を楽しみに待つ毎日であり、今後市の美化運動に貢献したいと念願している。

湊 弥五郎（坂出）

五十八才 妻と二人暮らし。健康です。

特別なことはしていませんが敢えて申しあげるならばほどほどに食べて飲み、気がむけばマイペースで走っている。

スポーツ、最近バレーボールのチームをつくり毎週二回指導しながら楽しんでいる。

公社生活四十年、それは人生の大半を過ぎたことになる。それだけに今静かに振り返って見ればいろいろな思い出が浮んでくる。戦前から戦後にかけての著しい

二 一

事業の躍進、それに伴う機構の变革。複雑化する人間関係等々。その中において失敗もあり幾日も苦悩したことがあった。しかしそんな時でも徒に失敗を批判せず、真の理解者として私を慰め勇気づけて下さった先輩同僚の言葉は今も脳裏に深く刻まれ忘れることが出来ない。

三 好 義 士（三本松）

五十七才 毎、妻と三人暮らし

多年胃下垂と胃潰瘍で悩んでおりましたが三、四年前から忘れたようによくなりました。軍隊におりました時作戦に参加して、右上膊骨折貫通銃創を受け三十余年経ったいま、右手が重く肩のあたりに絶えず鈍痛を覚えレントゲン撮影をしました。が症状がはつきりしません。軽農作業で適当に体を動かしています。小旅行が楽しみで時々歩いています。

短い間ではあったが軍隊生活の五年間が一番強く思い出として残っています。作戦に参加して一個分隊で保線作業中敵襲を受け、無我夢中で横に流れている川に飛び込み遮蔽したまではよかったが、意外に深く軍装の重みで体の自由を失なっている時歩兵部隊に救出され、九死に一生を得た嬉しい思い出は終生忘れることは出来ません。二度三度と死を覚悟しながら今なおこうして皆さんのお世話になっております。あと幾年の命かわかりませんがこれ以上皆さんにご迷惑をかけないように頑張りたいと念願しています。

五 四 三

山 口 初 樹（高知）

一 六十八才 妻と二人暮らし、別棟に娘夫婦と孫二人。

二 半健康、軽度のリウマチ。
三 リウマチ体操、理学療法。
四 読書、函数電卓、マイコン

五 昭和二十一年三月戦災後の無気力な職場で、私は松山通信局から青天の霹靂、「四月一日より英豪軍通信室勤務を命ずる」の電報を受けた。これから一年間日本語の使えない勤務が始まった。彼等は実戦体制であること。機密保持が厳しいこと。一分の遅刻も許されないこと。これ等は旧日本軍以上でした。その年南海地震を受けた彼等は大きな驚きでありました。地震ニュースを聞くたびに彼等の動作が思い出されます。

山 崎 荒 行（松山）

一 六十九才 妻と次女の三人暮らし。健康。

二 朝タラジオ体操、健康入浴法、古典朗誦
三 古典の読書（道元の正法眼蔵、兼好の徒然草など日本の思想）

四 公社の部外折衝にたずさわって十年、仕事で行く先々の地で札所を尋ね、一ヶ寺ずつをこつこつ歩いて納経しました。十二番焼山寺は札所の中でも指折りの難所ですが、谷川の流れて拾った茶色の蛙に似た石、竜串では黒ダイヤのように

一 二 三 四 五

七十才 妻と二人暮し。
良好。
鳥仕事。
囲碁、将棋。
十七年十一月復員してから二十五年五月まで独身生活。食物に困って鳥取、岐阜、三重方面へ買出しに行った。自分は

山下 茂(佐川)

一 二 三 四 五

六十三才 妻、一男一女
全員健康。
夏は鮎釣り、謡曲で下腹の鍛練。
鮎釣りと謡曲。
我々年配の思い出と言えば一様に戦時中、そして終戦後の混乱期の苦しみが残れることの出来ない記憶として残っているでしょう。併し又半面楽しかった青春時代、特に平和だった昭和初期の通講での一年間、桜の宮のせまいながらもバラの花で囲まれた校庭でたわむれた少年時代がぼつぼつと今もなつかしく思い出されます。

山下 亀 勢(高知)

艶のある石、そして種崎の浜では五色の石を拾ったのが私の思い出として私庭の風情をひきたてています。又別子山の柏の木や高知の大杉は懐しい樹木です。
おかげでお四国まわりができ、各地の名所旧蹟を尋ね、健康の一助ともなった幸せを感慨深くするの頃です。

随 筆

窮 鳥

おじまさとし (高知)



通信省から非常時乗車証を下附されていて切符が入り易かったので、必ず子供をもつ戦争未亡人を連れて行った。帰途警察に追われるのがつらかった。
また六十才になって明治東洋医学院へ入学し若い学生達に大事にして貰い(老人で入学したのは私だけであつたため)昼食時女子学生が弁当のふたへ次から次とオカズ等をわけてくれるので、余った分は下宿へ持ち帰って食べた。六十才を越してから「螢の光」で上級生を送ったのも楽しい思い出の一駒である。

小春日和の午後でした。縁側の陽だまりで一刻の惰眠を楽しんでいた私は、突然硝子戸に小石でもあたったような異様な音を聞きしました。硝子戸をくつてみると、一羽の小鳥が横たわっているのです。百舌よりも一廻り大きく、スマートで艶のある暗緑色の羽毛が殊の外印象的でした。
よく渡鳥が灯台の火を慕って、硝子壁に衝突死することは聞きますが、昼日中人家の硝

子戸に突っこんで来るとは珍らしいことです。どうやら死んではいけない。急いで台所に持って行き、口ばしを割って、一滴二滴水を注いでやると、閉じていた目を開きました。そして手の中で、羽根を動かしてはじめたのです。脳震とうを起こしていたわけで、どうやら外に怪我はないようです。それから大きめの小鳥籠に入れてやると、しばらくキョトンとしていましたが、止まり木に飛び上りました。尾羽根が籠にふれて窮屈そうです。

夕方、このまま飼っても、とても餌づけは不可能だろうと、庭から大空へ向けて投げ上げました。小鳥は一瞬大きく羽ばたき、次の瞬間もう視界から消えていました。私は考えた。もし一〇年前だったら、忽ち焼鳥になっていただろう。その気を起さなかったのは生命力減退より来る佛心(はつこころ)であろうか。又近頃の愛鳥宣伝の感化であろうか。日頃小鳥の声に慰められているからだろうか。そのどれでもないような気がするのです。

熊本通講卒の逸才 島田清

高橋 数一(西条)

大正十二年に熊本通信講習所普通科を卒業して、長崎電信局在勤を命ぜられた者に島田清というのがいた。その時まだ十四歳という若さであった。島田は一種の天才少年で、すぐれた散文や詩を書いた。
『文章倶楽部』という雑誌が新潮社から出ていた。若い人を対象とした文芸雑誌であったが、投書欄は当時の最高レベルを保っていた。大正末期から昭和初期にかけて島田は文章倶楽部の最もすぐれた投書家であった。詩や小

品がしばしば一位二位に掲載されていた。平林たい子、林芙美子、壺井繁治らもその頃の投書家であったが、恐らく島田の前には顔色がなかったであろう。その後島田は『通信協会雑誌』の文芸欄でもずいぶん鮮かな活躍ぶりを見せていたが、それを記憶に留めていられる人もあるだろう。

昭和十九年四月、満州電報の奉天管理局から新京の本社へ転勤した私は、それから終戦の時まで、島田と親交を持つこととなった。島田が協和文学賞の受賞作家神戸悌を連れて私の社宅に来たとき、徹夜で放談痛飲し、翌朝二人は酔歩まんさんとして帰って行ったことなどが思い出される。

その島田が昨年六月、がん疾のため亡くなった。満州から引揚後、作家を志して上京したのだったが、ついに名を成し得なかった。しかし、ルポライターとしては抜群の手腕を発揮したのであった。享年六十七であった。

電話番号奇縁

浜 口 徳 幸 (松山)

嘶は少し古くなりますが九月三日プロ野球で巨人軍の王選手が世界記録のホームランをカッ飛ばして、国民栄誉賞を授与されたが当時このホームラン狂騒曲で相当にぎやかだったことでした。

こうした折(九月五日だったと思う)私宅に次のような電話があったのです。

『お宅の電話番号は七五六ですか』『お住所は』『お名前は』

私はどなたでしょうと尋ねましたら、スポーツ新聞社の者ですが、ジャイアンツ王選手のホームラン世界記録七五六号を記念して、七五六に因んだ電話番号などの数字を調査して

います、もしかしたら記念品を差しあげるかもしれません、おじゃましましたとのことでした。

私はどこの新聞とも、企画の詳細もきかないままに電話はきられましたがもともと私も野球は大好きで広島ヘナイターを見によく行きましたし特に巨人びいきであり王選手も好きな選手ですから彼の世界記録の達成には心から祝福していました。

それはともかく私宅の電話番号が王選手の世界記録七五六号に奇しくも同数なのに奇縁を感じました。(私の電話番号は七五〇七五六です)以来私宅への電話は王選手のホームラン世界記録を思い出してかけてくださいと告げるようになっていきます。因みにあれから数ヶ月が過ぎましたがどのスポーツ新聞社からも記念品などの贈与はありませんでした。

笑 い 話

栗 田 信 雄 (松山)

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無情のひびきあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらわす。驕れる者久しからず、ただ春の夜の夢の如し、猛き人も遂には亡びぬ。ひとえに風の前の塵に同じ」

この名文ではじまる平家物語は、勇壮な軍記物語でなく、美しい亡びをうたう物語であるといわれている。そのなかで敦盛の美しい最期と熊谷次郎直実の人情味あふれる心情は人びとの心をとらえ、昔の小学唱歌や、謡曲にとりいれられ広くわれわれに親しまれている物語である。

ところが、これについて次のような江戸の笑い話がある。数人の町民が集りなげ敦盛がひき返したかと話していると一人が「おい

なら委細かまわず逃げてゆくが敦盛は熊谷とは思わず、なにかうしろからおいおいと呼ぶから手拭でも落したのかと思っただ」と。美しいエピソードも茶化されてはだいなしである。

五十三年初詣での旅

藤 田 基 孝 (松山)

天孫降臨の地といわれる高千穂宮に初詣でを思い立ち、八幡浜から臼杵、延岡を経て高千穂の民宿「刈干」に着いたのは正月二日の昼過ぎだった。

宿のおかみの好意で猪の肉を食い夜神楽につれて行ってもらった。舞台には切紙の四手が巡らされ、太鼓と笛に合せて面をつけて舞う古代神楽は天ノ岩戸にかかり、イザナミ、イザナミの二神が酒に酔って舞う夫婦和合の姿態をおおらかに舞い納めたが、神代の昔から女上位の体位はあったらしい。

翌朝改めて高千穂神社に参拝し、巫女から神酒を頂いて裏山の一の峰まで歩いた。

午後はバスで高千穂峡、国見丘、天岩戸神社に参拝、神殿の裏に谷を隔てて岩戸があると指差されたが私には見えなかった、境内に古代公孫樹があり、つぶれて臭き実を四、五粒拾って紙に包む。

二夜寝し刈干の宿を發ち阿蘇の外輪山を越え、垂玉の国民宿舎に投宿し、ここで三日泊る事にしたが、翌日は一日中雪が降ったので白き湯の華を肩に漂わせながら日に幾度も入浴し専ら身体の保養につとめた。

次の日は天気が回復したのですぐ上の湯治場を見に行く。長期の湯治客の為に自炊の出来る長屋が幾棟もあり、その附近には四本柱に杉皮を葺き竹の簀で囲った風呂場が幾つも

散在し、白く濁った温泉が溢れている。

後学の為に入浴を試みんと思ひ前に回れば一人の婦人が豊かな身体で白き湯を大きくゆさぶりながら上ろうとしている処であつた。谷に添って山に登ると巨岩が幾つも重り合つて白煙を噴く地獄温泉が湧いていた。素朴でおおらかな南阿蘇の垂玉温泉に四日目の朝、私は深き思ひ出を残して下山し、立野から豊肥線にて別府經由で帰途につく。夕日に輝く佐田岬燈台は実に雄大で美しいと思つた。

松山城を訪ねて (二)

窪田 淳 (松山)

現在ラグビー場のある裏あたりに「黒門」跡があり、「二の丸」と「三の丸」の出入口にあたる所、昔は櫓門があつた。今なお残っている左右の石垣は、さすが「三の丸」と「二の丸」を仕切っていただけに厳しい構で、大砲台が設けてあつたといわれている。「黒門」を抜けると正面を高い石垣が遮りそこは長方形の築城という「櫓形」となり、直角に右折すると次の構が「櫓の門」だつた。さらにその先には「規門」があつて、「二の丸」と「三の丸」への道が分れている。このあたりの石垣は二重矢掛りの構造を示し、古図によれば規模の大きい櫓門から左右の石垣に大砲櫓、弓櫓などの続櫓があつた。

「二の丸」からは「本丸」の「大手門」へと道は続く。山の傾斜が平垣になつた所が、材木、建築道具や武具を収めた倉庫、煙硝蔵があつたという。「大手門」が近くなると、道はくねくねと曲ってくる。俗に「七曲り」と呼ばれたところである。

戦国に生をうけた家臣であつてみれば、身

心の鍛錬のため、たびたび具足をつけて「二の丸」の屋敷を出て、七曲りあたりまで駆け廻つていたものだろう。「大手門」から先は「本丸」となり、ロープウェーで登つてもこれからは同じである。「大手門」のつぎが「中の門」となり、その上が「戸無門」となる。伝説によると、ある夜のこと、門限におくられて帰つた腰元が閉された城門をどうしても開けてもらえず、とうとう門の傍で自殺した。つぎの日から夜ごと「門を開けてください」と泣く腰元の亡霊が出るようになった。これを聞いたお殿様が哀れに思い、門の戸をはずしてしまつた。「戸無門」の名はそれに由来するといふ。

さて話は変わるが、西堀の内より東北の土手に回れば、ここは「札の辻」「三の丸」「二の丸」跡に囲まれた野球場、陸上競技場に出る。城主が日常の生活を営んでいた環境のよい所である。そこで国立病院、城東中学附近を散歩してみると、自然とお殿様気取りができるというもの、乙なものである。

死亡通知

田中義隆 (松山)

宇野千代氏著「水西書院の娘」所載の随筆に、型破りな死亡通知の話が出ていた。

ある朝、「幻の世を仲よくして頂き、ありがたうございました。一足お先きに失礼いたしますが、あなたはゆっくりお遊びになつてから、いらして下さい。(故人の氏名)」というハガキがきた。

その左側に小さい字で、「父はこんな書置を残して、×月×日、八十四歳の生涯を終りました。近親の者たちだけで内葬し、いはゆる葬式はするな。花環、香典一切辞退せよと

固く申し残しました。これまで父へお寄せ下さいましたご厚情を感謝し、右お知らせ致します」と遺族の付記がしてあつた、という。死にのぞんで、気がきいた辞世など容易にまとまるものでない。しかしこれは故人の人の柄がしのばれる、情のこもつた死亡通知だと思ふ。

といつて、まねられるものでない。まず人間がでなければなるまい。

春を彩る雛祭

玉川都夢 (松山)

雛祭は春を彩る美しい行事である。雛市・宵節句・白酒・雛あられ・菱餅・雛流し——こうした言葉のどれをとっても美しさと、やさしさがただよう。私の家でもかつては小さな屏風の前に紙雛を立て、雛菓子をお供えたものであつた。そうすると部屋に見ちがえるほどの華かさが生まれる。

早咲きの桃の一枝を瓶に挿して添えれば、その思ひはまさるといふものである。

いろいろななつかしい行事が都会で廃れてゆくにもかかわらず、雛祭は年々盛んになり二月に入れば百貨店の売場を大きく雛が占める。百貨店に余り用のない私でもこのときばかりは入って見たくなる。そして雛の飾られた売場に佇んでしまうのだ。雛は子女のためばかりではない。美しきものに寄せるもろびとの郷愁を誘うのである。

もとめずも心足らひぬ雛の市 貞

立雛の面輪句ひて眉目あり 秋桜子

点打ちのみの紅唇紙の雛 みつ子

歳時記を繰つてこうした句をいま拾ひ出してみると、それぞれに夢があり、たのしい。

念彼観音力

Q・Q生(松山)

日課の読経を思い立ってから、もう一年以上になります。はじめのうちは、自分でも三日坊主だと考えていたのが、意外に続いたものです。

それで家内も、「やはり年で、後生を願うようになつた」と見ていますが、それほど殊勝ではありません。せめて一日に一回、静かに座ってみようとしただけです。

読んでいるのは観音経、般若心経、延命十句観音経などです。お経の意味がわかつて読むのがよいかと思いましたが、今では意味もわからぬまま読んでるのがよさそうです。

というのも、無心になりたいと願っているからです。無心になりたいという有心が、かえってまたたけて無心になれないのは、彼肉なものです。

観音経の偈文に、「念彼観音力」という言葉が繰り返して出てきます。そこにくると、むかし評判になった三門博の浪曲、唄入り観音経の名調子、「ねんびかんのりき、とうじんだんだんね」を思い出して、にやりとなります。無念無想になれるはずがありません。

しかし、「かの観音の力を念ずれば」、ものろものろの障害が取り除かれるのですから、私の小さな願いもかなえられることがありましよう。無心になれないのは、念じ方がまだ足りないからで、無心になれるまで念じ続けるしかありません。

けさもにやりとなりながら、日課の読経をすませたところです。

俳句

初 旅

三島 花人(徳島)

初旅や空路列島眼下にし

神の礎数へ登りて初詣

御飾の歯朶にうれしく日差しけり

月 凍 る

長島 正行(徳島)

血の燃えて眠れぬ夜なり霜の降る

潮上ぐる音のひそみて凍テの川

はぐれ鳥の鳴かぬ孤独に月凍る

計 報

次の方々が亡くなりました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	行年	所属
近藤多三郎殿	53・1・7	七七	丸亀
山本 正清殿	53・1・7	八三	高知
入江 竹一殿	53・1・14	七二	坂出
近田 虎寿殿	53・1・16	七〇	南国
比企 員美殿	53・2・22	六三	松山

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 五月一〇日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

昭和五十三年度予算は三月七日衆議院本会議で賛成多数で政府案通り可決し参議院へ送付されました。これで同予算は四月四、五日ごろ参議院で成立するメドがほぼつきましましたので恩給改訂は掲載どおり実施の運びとなるでしょう。

我々の共済年金の改訂についても、例年のとおり恩給改訂に準じて実施されることと思われまます。

(玉川)

電友会四国連合会会報 第二二号

昭和五十三年四月一日発行

編集発行

電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(〒七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六―二〇二三

印刷

四国電話印刷株式会社